

提 案 書

<p>提案名 (25字以内)</p>	<p>みなとみらい・バリアフリーガイド</p>
<p>グループ名 (25字以内)</p>	<p>NPOスクエア連絡会</p>
<p>グループの現在の主な地域社会貢献活動の内容及び最近5年以内の実績</p>	<p>NPOスクエア（ワールドポーターズ6階事務所スペース）には15団体（個人を含む）が入居しており、個々に地域貢献活動を行っている。15団体はNPOスクエア連絡会としてゆるやかな連携があり、連絡会として2002年より毎年ワールドポーターズのバリアフリーフェアに参画、バリアフリーに関するフォーラムを開催している。</p> <p>2008年度はワールドポーターズのバリアフリーマップ（かながわ県民活動サポートセンター助成）を作成、ワールドポーターズ館内で来訪客に配布し、毎月行われている車椅子研修や横浜市内の高校（福祉クラス）などで利用している。</p> <p>2009年・2010年度は「みなとみらい21エリアマネジメント活動助成」を受けてMM21にて車椅子による町の探索を行い、バリアフリー度を体験、関係機関に報告している。</p>
<p>助成金を受けて行う活動の目的</p> <p>（「地域における良好な環境や地域の価値の維持・向上」にどう資するか具体的に記入してください。）</p>	<p>・障害者（歩行困難者）のみなとみらいへのアクセスをよりよくして、みなとみらい地区のイメージとブランド力を上げる。</p> <p>動く歩道が開通し、横浜博が開催されたのが1989年、「バリアフリー」という言葉はまだなかったものの、この時代には、すでに、「公共の場は車いすでのアクセスが確保されなければならない。」ということが、一応の了解を得ていた。ここから始まるみなとみらい事業地区は、それゆえ最初から一定のバリアフリーインフラを持っている。こうしたインフラ整備は1994のハートビル法、2000年の交通バリアフリー法によって、法的にも整備された。こうした中で計画的に開発されたみなとみらいは、障害者（主として歩行困難者）にとって、他の場所とは比べれば活動しやすい場所だと言える。</p> <p>しかし、今ひとつの部分も多い。そうした、「今ひとつ」を補うのは、「ソフトの力」である。実は、ソフトとハードの境界は極めて曖昧で、例えば、同じキットを同じ場所に設置しても、計画者、施工者の配慮で利用の可否が出てくる。これは、設置時の「ソフト力」である。その利用の可否は、他方で、その施設の使い勝手の「特性」ともなりうる。</p> <p>2年間の調査の結果、それぞれの施設の特性を収集できたので、それを「バリアフリー・マップを作成するためのガイドブック（情報ノート）」にまとめる必要があると感じた。</p> <p>そこで、インフォメーションに問い合わせがあった時に、障害特性別に、きめ細かく使いやすさを伝えたり、また改装時に何に気をつけたらいいのかがわかるようなガイドブックを作成したいと考えている。そうした特性が、適切に情報配信されることは、ユーザーに</p>

	<p>対しては、「サービス提供側は。ちゃんとわかっているのだな」ということが伝わって安心感を与えるものとなるし、サービス提供側にとっては、適切なサービスを適切なだけ効率的に提供するためのガイドとなりうる。</p> <p>加えて、歴史地区でも、保全とバリアフリーの兼ね合いを考えて街づくりを行っているので、その経緯も紹介したい。それによって、みなとみらい地区で活動する人の層と幅広げるのが目的である。</p>
助成金を受けて行う活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで歩いて得たバリアフリーに関する情報を「バリアフリー情報提供のためのガイドブック」として、ブックレットにまとめる ・ブックレットを、横浜みなとみらい21のネットワークを通じて、テナントや企業に配布し、可能であれば、意見交換を行いたい。 ・今年度前半に助成金申請したPC-ITVがバリアフリー（バリアロード）を作成したいと相談を受けているので、協力して、一部を動画化し、ネット配信したい。ガイドブックデータも、紙媒体で提供するとともに、ネットでも提供したい。
今回の提案の特徴その他特にPRしたい点	<p>「横浜みなとみらい21」のバリアフリーをより実質的なものへと進化させ、結果的に、快適にみなとみらい地区で活動できる人の層と活動の幅が広がる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜みなとみらい21」テナント向けマニュアルとしてガイドマップと手引き作成の資料となり、車椅子用研修などの学習素材が提供できる ・「横浜みなとみらい21」のビル管理者やテナントが、自分が運営する施設のバリアフリー状況の長所と短所を理解できる。それによって、新設、改修の際に、より利用範囲の広いものへと展開させられる（ユニバーサル・デザイン）また、欠点を補う大体サービス提供や、ご案内などの、新しいサービス構想のヒントとなる。

● 活動計画

助成金を受けて行う活動の内容を月ごとに記入してください。すでに行った活動がある場合は、そちらも記入してください。

2011年6月	ビデオ作製のためPC-ITVとの連携を協議。
2011年7月	2011年度後期申請のために、協力者との連絡調整を始める
2011年8月	申請書提出
9月	・公開選考会
10月、11月	ビデオ作製のために車いす探訪 パンフレット作製のために、打ち合わせ
12月	パンフレット作製
1月、2月	ビデオ作製のために車いす探訪
3月	Webに成果をアップする